

平成23年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2008 - C - 01

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：防災研究フォーラムによる地震火山研究の推進英文：Promotion of earthquake and volcano studies by disaster prevention research forum4. 研究代表者所属・氏名 東京大学地震研究所・森田 裕一(地震研究所担当教員名) 森田 裕一

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
久保純子	早稲田大学・教授	外国旅費	3月11日～15日	5	有
南雲直子	東京大学・助教	外国旅費	3月11日～15日	5	有

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード： 洪水被害, カンボジア, 現地調査

2011年モンスーン季のインドシナ半島における洪水被害は、タイ国内チャオプラヤ川下流部の水害が大きく報道されたが、メコン川下流域に位置するカンボジアでも近年にない規模の洪水となった。本調査は、防災研究フォーラムによる緊急災害調査として、メコン川下流域、特に首都プノンペンを中心とした地域で現地調査を実施し、被害状況の把握や洪水の特質などを明らかにして、今後の防災対策に活用しようとするものである。2011年洪水と2000年洪水の最大浸水域を比較すると、支川トンレサップ川～トンレサップ湖の浸水は2011年の方が広く、下流のメコンデルタ(ベトナム)では2000年の浸水域が広い(MRC, 2011)。NASA撮影の衛星写真と、Kubo(2008)による微地形区分を比較すると、プノンペン周辺ではメコン川やバサック川の自然堤防や「コルマタージュ」水路周辺の微高地は浸水が少なく、トンレサップ川流域の浸水域が大きい。また、微地形区分図で「高位沖積面」とした部分が、2000年洪水時と同様に浸水したことが明らかである。この面は通常の洪水では浸水しないが、2000年や2011年洪水のような規模の洪水時に浸水する。本研究で行ったプノンペン周辺における洪水痕跡調査(図1)の結果、平野の微地形と浸水状況・浸水深に対応が見られ、Kubo(2008)の結果と一致した。

7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト*1または2000～3000字の報告書)

(*1論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)